

第Ⅱ編 サービスの概要

1 サービスの概要

1.1 概要

64kbit/s～6Mbit/sの高速デジタル回線を提供するサービスです。

64kbit/s～6Mbit/sの高速デジタル回線には、故障監視機能を簡略化し、保守面でのグレード化を図り、低価格で回線を提供するデジタル・アクセス（DA）と通常の高速度デジタル伝送を提供するハイ・スーパー・デジタル（HSD）、スーパー・デジタル（SD）に分かれます。

本サービスは、伝送路インタフェース、^(注1) または、NTT 東が提供している回線接続装置（DSU）・回線終端装置（ONU）を設置してユーザ・網インタフェース^(注2)での利用ができます。

（注1） 第Ⅲ編伝送路インタフェース参照

（注2） 第Ⅳ編ユーザ・網インタフェース参照

1.2 高速デジタル回線のサービス品目とインタフェース

サービス品目一覧を表1.1に示します。

表1.1 サービス品目とインタフェース

	品目	内容	LIで提供	UNIで提供の場合
DA	64kbit/s	64kbit/s の符号伝送が可能	マルチ加入者線 伝送方式	Iインタフェース
	128kbit/s	128kbit/s 〃		
	1.5Mbit/s	1536kbit/s 〃	(提供いたしません)	
	6Mbit/s	6144kbit/s 〃		
HSD	64kbit/s	64kbit/s の符号伝送が可能	マルチ加入者線 伝送方式	
	128kbit/s	128kbit/s 〃		
	192kbit/s	192kbit/s 〃	光ファイバ加入者線 伝送方式	
	256kbit/s	256kbit/s 〃		
	384kbit/s	384kbit/s 〃		
	512kbit/s	512kbit/s 〃		
	768kbit/s	768kbit/s 〃		
	1Mbit/s	1152kbit/s 〃		
	1.5Mbit/s	1536kbit/s 〃		
	3Mbit/s	3072kbit/s 〃		
	4.5Mbit/s	4608kbit/s 〃		
	6Mbit/s	6144kbit/s 〃		
多重 アクセス	1.5Mbit/s	1536kbit/s までの多重化が可能		
	6Mbit/s	6144kbit/s までの多重化が可能		
SD	64kbit/s	64kbit/s の符号伝送が可能	(提供いたしません)	Yインタフェース
	192kbit/s	192kbit/s 〃		
	384kbit/s	384kbit/s 〃		
	768kbit/s	768kbit/s 〃		
	1.5Mbit/s	1536kbit/s 〃		
	3Mbit/s	3072kbit/s 〃		
	6Mbit/s	6144kbit/s 〃		

DA : Digital Access

HSD : High Super Digital

SD : Super Digital

2 回線構成

2.1 伝送路インタフェースでの提供による回線構成例

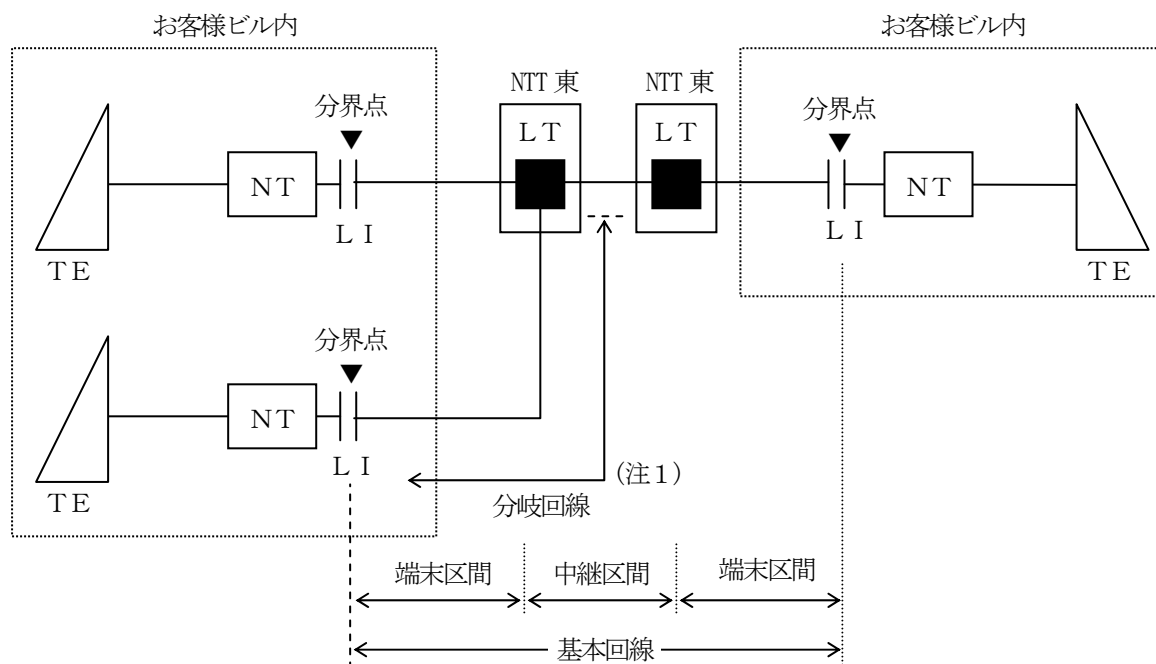
伝送路インタフェース速度と端末区間伝送方式の関係を表2. 1に示します。

表2. 1 伝送路インタフェース速度と端末区間伝送方式の関係

伝送路インタフェース速度			端末区間の伝送方式	
			メタリック 加入者線伝送方式	光ファイバ 加入者線伝送方式
I イ ン タ フ ェ ー ス	H S D	320kbit/s	○	×
		6312 kbit/s	×	○
	D A	320kbit/s	○	×

○：適用可能 ×：提供しない

回線構成例を図2. 1に示します。端末区間の伝送方式には、メタリック加入者線伝送方式及び光ファイバ加入者線伝送方式があります。



(注1) 自動切替機能を提供の場合
(DAの場合は提供致しません)

図2. 1 回線構成例

2.2 ユーザ・網インタフェースでの提供による回線構成例

ユーザ・網インタフェース速度と端末区間の伝送方式の関係を表2.2に示します。

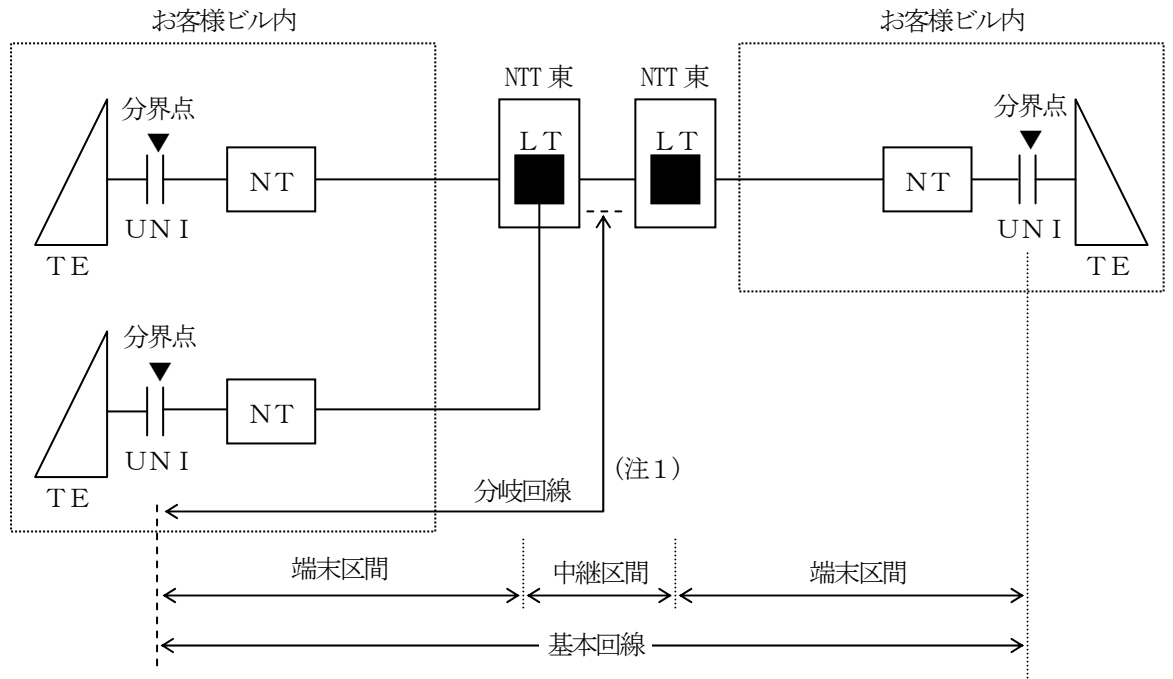
表2.2 ユーザ・網インタフェース速度と端末区間伝送方式の関係

		ユーザ・網 インタフェース 速度	端末区間の伝送方式		
			メタリック 加入者線伝送方式	光ファイバ 加入者線伝送方式	光ファイバ PDS方式
I インタ フェ ース	H S D	192kbit/s	○	×	×
		1544 kbit/s	×	○	×
		6312kbit/s	×	○	×
	D A	192kbit/s	○	×	×
		1544 kbit/s	×	×	○
		6312kbit/s	×	×	○
Y フェ ース インタ	S D	80kbit/s	○	×	×
		1544 kbit/s	×	○	×
		6312kbit/s	×	○	×

○：適用可能 ×：適用不可

2.2.1 Iインタフェースでの提供による回線構成例

Iインタフェースでの提供による回線構成例を図2.2に示します。



(注1) 自動切替機能を提供の場合
(DAの場合は提供致しません)

図2.2 回線構成例

2. 2. 2 Yインタフェースでの提供による回線構成例

Yインタフェースでの提供による回線構成例を図2. 3に示します。

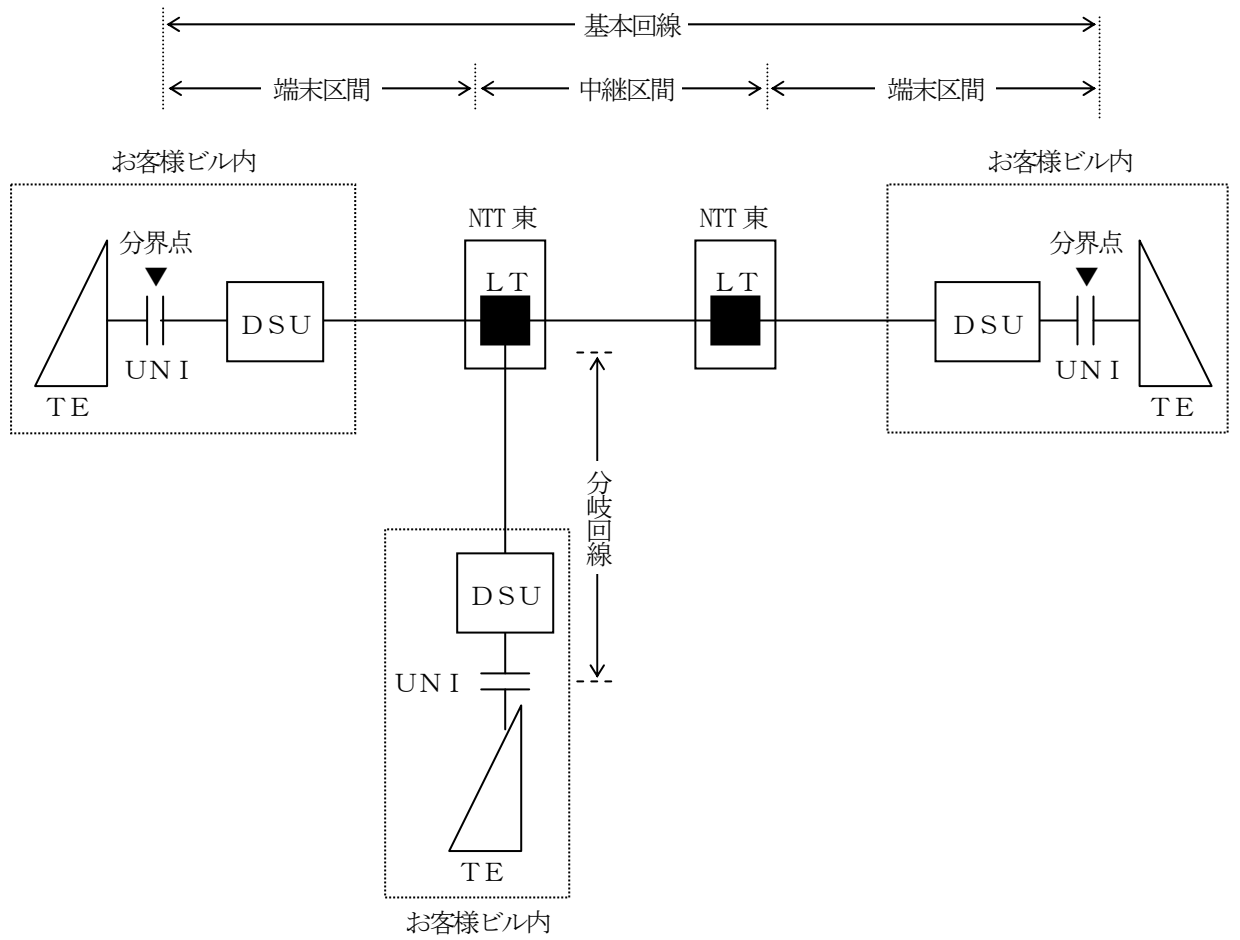
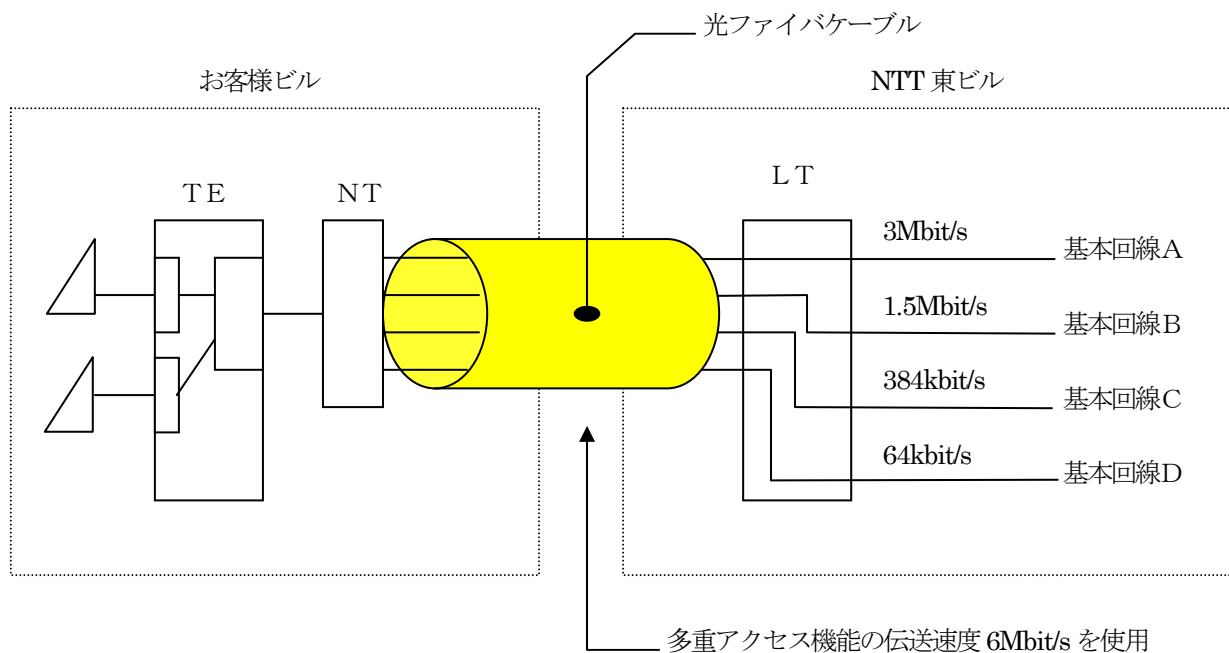


図2. 3 回線構成例

3 多重アクセスサービス

HSDにおいて、同一場所に設置される複数の回線を同一インタフェース上（6Mbit/s または 1.5Mbit/s の伝送速度）で多重化して1台のDSUによって提供するサービスです。

図3. 1に多重アクセスの例を示します。



- ① 基本回線 A, B, C, D を多重化した場合の利用形態を示します。
- ② 回線の行き先別の収容位置（タイムスロットの位置）はお客様に指定していただきます。

図3. 1 多重アクセスの例

4 分岐サービス

SD回線において、一つの回線で複数の拠点間の通信を可能にするサービスです。
 分岐回線は、基本回線と同じ回線速度です。
 分岐形態例を図4. 1、分岐利用の条件を表4. 1に示します。

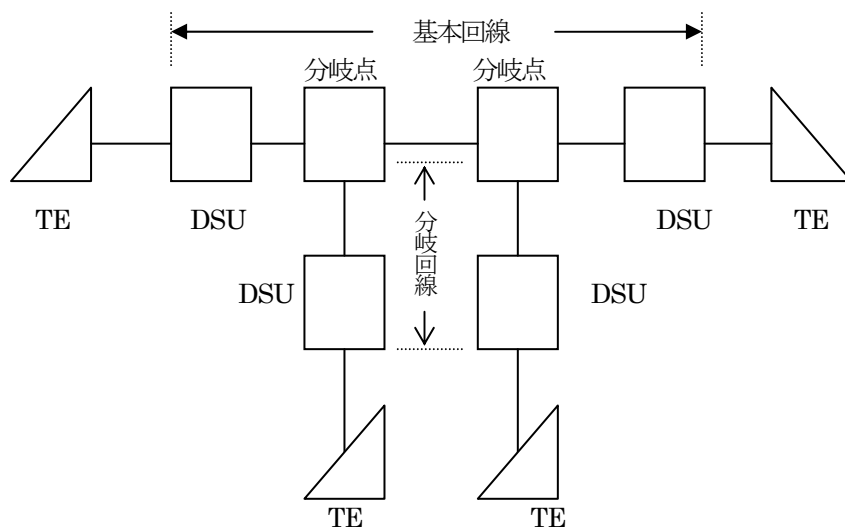
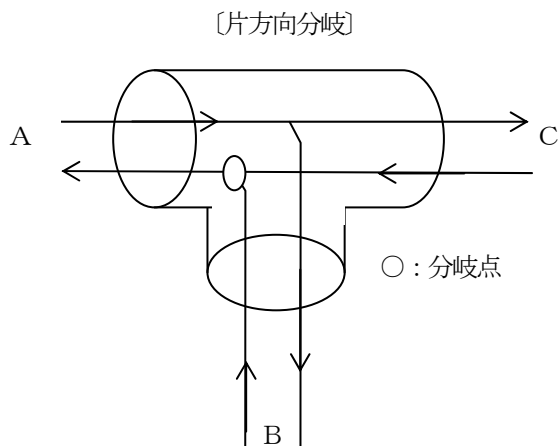


図4. 1 分岐形態例

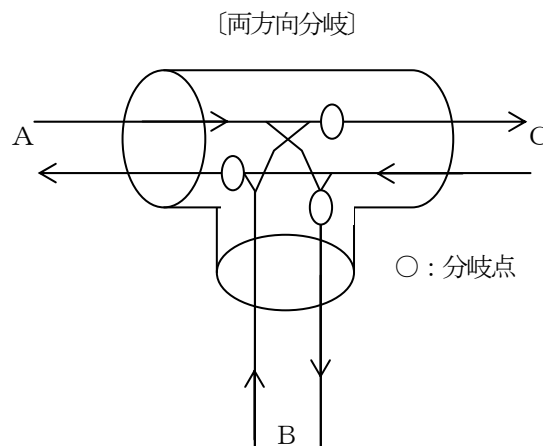
表4. 1 分岐利用の条件

項目	内容
分岐方法	片方向分岐、両方向分岐 (注)
分岐回線速度	基本回線と同じ回線速度
分岐数	分岐箇所数及び1箇所における分岐数に制限はなし (但し、分岐回線をさらに分岐することはできない)

(注) 分岐方法は、以下のとおりです。



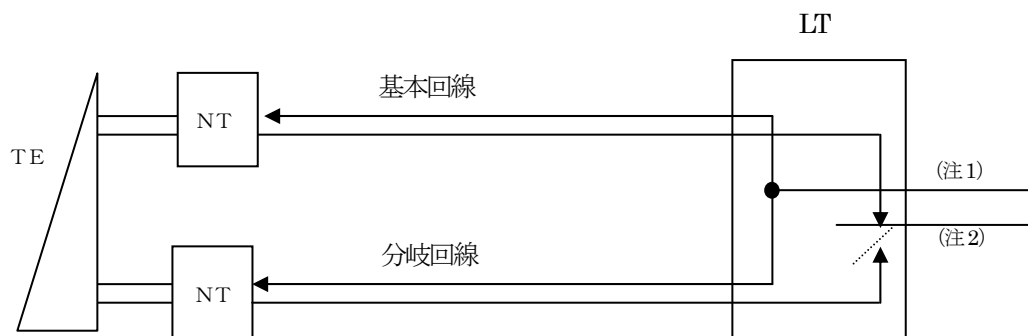
AとB、AとC相互間のみ通信が可能な分岐形態
 (Aを主ビル、B及びCを従ビルといいます)



A、B、C相互間において通信が可能な分岐形態
 (A、B、Cを主ビルといいます)

5 回線自動切替サービス

HSD回線において、基本回線とは別にバックアップ専用の分岐回線を設置し、端末区間を二重化するサービスです。基本回線で故障が発生したときに、自動的に分岐回線へ切り替われます。回線構成図を図5. 1に示します。



(注1) LTからNT方向は、常時同報通信の状態です。

(注2) NTからLT方向は、基本回線故障時、LT内部で自動的に切り替わります。

図5. 1 回線自動切替サービスの回線構成